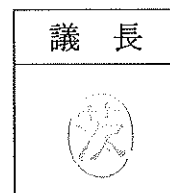


(書式7の2) 調査研究, 要請・陳情実施報告書



令和 6 年 1 月 3 1 日

(議 員 名) 植 原 泰

調査研究, 要請・陳情実施報告書

下記のとおり実施したので報告します。

1. 期 間 令和 6 年 1 月 1 0 日 (水曜日) から
令和 6 年 1 月 1 1 日 (木曜日) まで

2. 視 察 先 愛媛県大洲市、高知県宿毛市
(要請・陳情)

3. 参加議員名 植原 泰

4. 調査研究の概要

(1) 「中学校部活動の地域移行について」・・・別紙参照	
大洲市教育委員会文化スポーツ課長	脇坂 剛氏
〃 課長補佐	大津宝丈氏
(2) 「宿毛市立小・中学校整備事業 (PFI) について」	
「宿毛市が取り組む小中一貫教育について」・・・別紙参照	
宿毛市教育次長兼学校教育課長	和田克哉氏
〃 学校教育課学校再編係長	矢野祐生氏
〃 都市建設課長	小島裕史氏
〃 総務課総務係長	伊藤麻里氏
〃 税務課固定資産税係長	川田匡一氏

※ 要請・陳情先は相手先の所属・職名・氏名を記入して下さい

○大洲市視察の概要

視察事項：「中学校部活動の地域移行」について

今回大洲市での視察は市役所で「中学校部活動の地域移行について」の説明を受けた後、質問を行った。内容は、事業実施までの経緯や実証事業として開始したカヌークラブと軟式野球クラブ、今後の予定についてである。

事業実施までの経緯では、令和4年6月6日にスポーツ庁に出された検討会議の提言を受けて、11日後の令和4年6月17日には運動部活動地域移行検討班会を設置し、2回の検討班会の後、市内の小中校の職員にアンケート調査を行った。その後も、2回の検討班会議を行った後、市内の小中学校の生徒にアンケートを行い、12月には第5回・第6回の会議を部活動地域移行検討班会と名称変更して実施している。

翌年の令和5年に入り、2月14日にスポーツ庁からモデル的な希望調査として出された地域スポーツクラブ活動体制整備事業一次調査を基に、3月2日に市内の小学校5・6年生の保護者、中学校の1・2年生の保護者にアンケートを実施している。

地域部活動推進事業検討班会に名称変更後、第1回の会議を令和5年5月30日に開催し、6月19日に設置要綱を制定、同月、予算を上程した。その後、事業検討から推進していく事業として、7月4日に第1回大洲市地域部活動推進協議会を開催した。翌日7月5日に愛媛県と大洲市の間で委託契約を締結し、8月3日には大洲市と大洲市カヌークラブの間で小中学校生徒への指導を依頼する契約を締結した。8月14日には軟式野球クラブの体制整備のための業務をプロポーザル方式で選定し、NPOおおずスポーツクラブとの間で契約を締結、9月13日軟式野球クラブ実証事業の対象保護者への説明会を行い、同月29日に愛媛県も公立中学校の部活動改革に係る推進計画を策定した。11月には大洲市地域部活動推進計画(案)を策定し、同月27日に第2回の大洲市地域部活動推進協議会を実施している。

具体的な実証事業は、カヌークラブとして、2023年10月1日に中学生5人で開始しており、指導は大洲カヌークラブと大洲高校生が担当している。軟式野球クラブは、2023年11月5日に大洲東中3名、長浜中4名、肱川中1名の構成で始まり、指導は大洲東中と肱川中の野球部顧問が兼職兼業で担当しており、今後はマンダリンパイレーツからの講師も予定している。

今後の予定は、令和6年度実施に向けて、国へ計画を提出し、大洲市にも予算を要求、令和6年2月に実施している実証事業に対するアンケートを行い、3月には第3回の大洲市地域部活動推進協議会を開催予定である。できるところから、できるものから地域移行をし、指導者や環境整備を進め、教員としての休日

の部活動指導時間がゼロになることを目標としているそうである。

説明を受けて、今後の指導者確保への取組や休日の指導者による平日の部活動への指導参加について、キッズやジュニアへの取組や運営資金について、クラブになると強いクラブへ偏る問題について、国の方針の予定について、クラブとしての大会への参加の可否について、民間指導者の教育現場への参加に対する教員の反応、ケガや事故発生時の市の対応等の質問が出された。

○所 感

わずか1年半で運動部活動の地域移行の実施に漕ぎつけていることに驚かされた。実施する中で、アンケートで出てきていた不安を払拭したものもあれば、問題が残っているものもある。どのようなチームとして大会への参加となるのか、選手の偏りが起きるのではとの問題も出てきているようだが、それも想定内として急速な少子化に対応できるよう「出来ることから実施してゆくのだ」という考えが根底にある。出てきた問題はそのときに対応を考え、よりよいものにしていくことで、さらなる部活動の数を増やしていけるよう、ノウハウの蓄積を進めている。事実、子供たちへの選択肢を広げることは出来ていると感じた。

ただ、大洲市も問題として捉えていた指導者の確保に向けた取組が、様々なスポーツについてクラブとして存在できてないことや、愛媛県や大洲市としても具体的な取組が見られていないことが今後進める上での障害となっていくと感じている。

○宿毛市視察の概要

視察事項：「宿毛市における PFI による小中学校整備事業について」

宿毛市でも少子化の波が起きており、市内で一番大きな小学校でも全校生徒 354 名、中学校でも 184 名となっている。それらを受けて平成 19 年に宿毛市立小中学校再編計画を策定した。津波による災害のリスクを考慮して、平成 25 年に学校の高台への移転を検討し予算化したが、予定地の買収が上手くいかず、翌年高台移転を断念し、現地建て替えに切り替えた。

これを機に文科省の補助金が受けられる BTO 方式を採用することにした。専門家が派遣され宿毛市としての PFI に向けた調査研究が行われ、平成 30 年 10 月に募集要項を公表し、翌年 2 月に優先交渉権者を決定、小中学校を同じ敷地に作ることで、小中一貫教育を目指す学校とした。

翌年の 3 月に事業契約を締結した。契約金額 4,554,560 千円で、事業期間は平成 31 年 3 月から令和 31 年 3 月末までの 30 年間、行政として支払いは 30 年間の平準化均一分割で支払うことになっている。BTO による業務分割では、プロジェクトマネジメント業務（約 7 億）、企画・設計業務、整備・開発業務、維持管理業務（約 5 億）の業務に分けられて行うことになっている。対象施設としては、小学校・中学校の校舎、小学校のプール、学童保育棟、部室棟、校舎と中学校の体育館やプールを結ぶ渡り廊下を新築し、小学校体育館と中学校の体育館と技術棟は既存の施設を使用することになった。

令和 3 年 3 月に小中学校が完成し、4 月 7 日から高知県初の PFI 方式による宿毛小中一貫校が開校している。小中一貫教育校となり、職員室も小・中職員の仕切りはなくなった。

義務教育を 9 年間連続した教育課程と捉え、9 年間の一貫した教育目標を立て、連続性、系統性のある学習指導や生徒指導に取り組んでいる。また、義務教育終了段階に子供たちが目指す姿を「自ら学ぶ意欲を持ち将来の夢に向かい進路選択できる児童・生徒の育成」とし、小中学校の教職員が互いに情報を共有し合い、9 年間で 3 つに区分（小学 1 年から 4 年、5 年から中学 1 年、2 年から 3 年）し、各区分で目指す姿を達成するための目標を設定している。これは、自尊感情の低下を止めることや中一ギャップを起こさないように取り組んでいるが、実施してみると職員の人事異動、職員の業務の実質的な負担増、小中連携にしかになっていない等の問題点も出てきているようである。

現地視察を行って、「夢に向け努力を続けるつくしの子」をスローガンとしているが、これを本学校のスローガンとするか宿毛市全体でのスローガンとするかは決められていない。また、教育現場では、英語教育に力を入れており、英検の試験料の半額を補助している。その効果か、既に小学 3、4 年生が英検を受け

ており、成果を見ながら市内全域に広げようと考えているとのことであった。

○所 感

子供たちの安全確保のための学校の高台移転であったが、地権者との話合いが上手くいかなかった点には驚いた。何よりも大切なことだと考えるが、それが不調になった理由が釈然としなかった。

予測の津波が到達した際には、避難時間も取れず、校舎の1階はもちろん2階の部分にも浸水する中で、校舎と体育館を結ぶ渡り廊下を2階部分に設けていることに、効果があるのかは疑問に感じた。しかし、体育館に観覧部分を設けて、避難できるようにしている点や、小中の校舎内を3階までの各階で移動できるようにしている点は、校舎の強度を増すことや避難経路の確保の点からも上手く考えられていた。

さらに、調理場を上階に持ってきていて、ガスも都市ガスでなくガスボンベにすることで移動可能になっており、調理場と同じ階に設けることで、災害発生時の食事確保も考えられていた。坂出市とでは津波に対する避難の緊急性に違いがあるが、災害発生時の避難場所の確保、食事の確保、電機の確保はこれからの学校建設時に考慮すべき施設だと思える。

私も3、4年前に坂出市がソーラーパネル設置の補助に続き、蓄電設備設置に対して補助を行う政策を出した際、小中学校の屋上にもそうした設備を設けるべきではと議会で質問させていただいたが、理事者側からよい答弁はいただけなかった。そうした施設を既に盛り込んでいる学校づくりを行っている自治体があることから、やはり危機感覚において坂出市の遅れを感じてならない。